

様式第3号（第7条関係）

## 会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 平成29年度第5回水戸市行政評価委員会
- 2 開催日時 平成29年10月2日（月）午後2時00分から午後3時00分まで
- 3 開催場所 本庁舎南側臨時庁舎3階中会議室
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員  
今村一真，高島和子，水庭清隆，吉田勉（氏名五十音順）
  - (2) 執行機関  
高橋靖，荒井宰，川上悟，櫻井和則，深谷晃一，千田寛，吉川彩美，畠山明子
  - (3) その他  
欠席者：大谷由美子
- 5 議題及び公開・非公開の別  
答申書の確認及び答申（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数 1人
- 8 会議資料の名称  
答申書
- 9 発言の内容

○**執行機関** 本日は，お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から平成29年度第5回行政評価委員会を開催させていただきます。本日は答申書について確認していただいた後，市長へ答申を行う予定となっております。それでは，議事進行につきましては，\_\_\_委員長をお願いいたします。

○\_\_\_**委員長** 会議次第に基づき，議事を進めたいと思います。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。本日は，\_\_\_委員が所用のため欠席となっております。それでは，会

議録の公表の関係で、会議録署名人を指名させていただきます。\_\_\_\_委員と\_\_\_\_委員をお願いいたします。それでは、早速審議に入りたいと思います。答申書については、第2回から第4回までの委員会における審議結果に基づき、作成させていただきました。委員の皆様には、事前に送付させていただいておりますが、特に問題はないということでよろしいでしょうか。それでは次に答申に移りたいと思います。ここからは、一度事務局に進行を移します。

○**執行機関** それでは、\_\_\_\_委員長から高橋市長へ、平成29年度行政評価についての答申をしていただきます。\_\_\_\_委員長よろしくをお願いいたします。

○**\_\_\_\_委員長** 水戸市長高橋靖様、平成29年度行政評価につきまして答申させていただきます。平成29年7月31日付け行評諮問第1号により、当委員会に諮問のありましたこのことについて、別添の平成29年度行政評価に係る答申書のとおり答申いたします。

○**高橋市長** 御審議いただきましてありがとうございます。

○**\_\_\_\_委員長** それでは、ただ今答申いたしました答申書について、概略を御説明させていただきます。答申書を御覧ください。1年目評価から6年目評価の事務事業について、評価させていただきました。1年目評価の8事務事業は、各委員より担当課へのヒアリングを行いまして慎重に検討いただき、それを踏まえて行政評価委員会を開催いたしました。2ページを御覧ください。1年目評価につきましては、各委員に分担の上、審査させていただきました。全体にわたって改善、あるいは真摯な取組が見受けられましたが、一部の事業は見直しの上で継続するのがいいということで、『ヒューマンライフシンポジウム』、『芸術文化活性化事業』、『市場活性化事業』、『チャレンジ・ザ・原始人』につきましては、見直しの上で来年も行政評価の対象とさせていただきたいと考えました。『環境フェア』、『市民スポーツ大会』、『水戸まちなかフェスティバル』、『内原ふれあいまつり』につきましては、行政評価にあがる前から検討、改善がされておりましたので、評価としては終了として、継続して事業を行っていただきたいと考えました。後ほど、委員の方々と意見交換をしていただければと思います。2年目評価はイベントについて評価しております。昨年からの宿題であった5事務事業のうち、『農業祭』、『商工祭』、『水戸黄門まつり』につきましては、若干、改善の余地があるということで、引き続き行政評価の対象といたしました。『風土記の丘ふるさとまつり』、『七ツ洞公園再生事業』につきましては、今年度で十分な成果が見られたということで、評価終了としたいと考えました。3年目評価の『開放学級事業保護者負担金滞納整理事務』につきましては、十分な取組がされているため評価終了としました。5年目評価の『斎場管理運営事務』につきましては、他市を参考にして民間活力の導入も検討していただきたいということで、評価継続としました。6年目評価の3事務事業のうち、『保育所管理運営事務』と『幼稚園管理運営事務』につきましては、今年度中にあり方検討会の報告がなされるということですので、それを踏まえて改善についての考え方を確認させていただきたいということで、評価継続といたしました。『少年自然の家管理運営事務』については、今年度で評価終了といたしました。各事務事業について

詳細に検討させていただいて、答申書を作成いたしましたのでよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○**執行機関** ありがとうございます。それでは、市長から御挨拶を申し上げます。

○**高橋市長** 水戸市行政評価委員会の委員の皆様には、活発な議論をしていただきまして、本日の答申をいただきましたこと、厚く感謝申し上げます。御指摘いただいた点を踏まえて、改善のため職員一丸となって努力していきたいと思っております。特にイベントにつきましても、歴史があること、関係者が多くいることから様々な調整が必要となってきます。歴史を踏まえて、コンセプトが正しいのかどうか、あるいは時代が変わっているのではないかと、そういったことも精査していかなければならないと思っております。委員の皆様から御指摘をいただいて、見直しの上で継続となりました事業につきましても、評価終了となるように改善していきたいと考えております。特に『芸術文化活性化事業』につきましても、御指摘のとおり、なぜ芸術館の自主事業と住み分けをしているのか、国からの補助金があるためにそのような形になっているのか、補助金をもとに芸術館が自主事業として行ってもいいのかどうか、補助金があるから無理に行っているのではないかとといったことを、現場へ聞き取り等行って、水戸市として必要な文化事業を行っていききたいと考えております。どのような形で行っていくのが望ましいか、内容が費用に見合っているのか、我々も芸術文化という分野は分からないことが多いのですが、税金を使って行うことですので、市民の理解を得られるような文化活動をする必要があります。学芸員等と連携をとりながら行っていければと思っております。『チャレンジ・ザ・原始人』につきましても、旧内原町の方々が熱心に行ってきたイベントであり、尊重したいと思っております。問題は、意欲があっても自分たちはこうしたいんだ、ということだけで税金を使っているのかということもありますので、その辺りは考えていかなければならないです。地域住民のボランティアの方々が子どもたちをどのように育成していきたいのか、何のために自然体験をさせたいのか、内原地区だけでなく水戸市全体の子どもたちを対象として事業を行っていくためにはどのような組織体制が良いのかといったことを、現場とよく話し合い、意見交換をしていく必要があると考えております。この後の意見交換において、皆様からの御意見をいただければと思います。現在、水戸市行財政改革プラン2016に基づいて様々な行政改革の施策を展開しているところでございます。御存じのとおり、4大プロジェクトを行っております。多大な事業費がかかっております。市役所新庁舎の整備や新ごみ処理施設の整備等は、経費に対しての売上といったことで推し量るものではないですが、市役所であれば市民サービスや災害対応の拠点となる、新ごみ処理施設であれば市民生活の環境を支える拠点となる、それには行政だけでなく市民や子どもたちの環境教育をしっかりと行っていく、環境啓発事業を行う拠点として整備していきたいと思っておりますので、施設でどのようなことを行っていくのか市民の皆様に見せていく、PRしていきたいと思っております。一方で、新市民会館や東町運動公園体育館等は、運営管理費や利用率はどうか、その部分の費用だけではないにしても、観光振興やコンベンションの機能という部

分についてどのような効果があって、市の経済にどのような影響をもたらすのか、そういったところも市民に見せていかななくてはならないと思っております。管理費と利用料のバランスだけは明確に示せるのですが、それによって市の経済、例えばお土産物の店やホテル、飲食店といった観光に携わるところへどのように影響するのか、売上はどう変わるのか、それによって市の税収は増えるのか、そういった部分だけ抽出して市民の皆様にお見せするのはなかなか難しいです。これだけの人が来ていればこのくらいのお金を使っているだろう、その結果こういう経済波及効果がありますと、だからこれだけの運営費をかけても、なんとか市民の理解を得られるような利活用をしていると説明、情報公開をしっかりとしていかなければならないと思っております。現政権の言葉を借りれば『人づくり革命』であるということですが、我々も未来への投資プロジェクトということでやらせていただいております。我々が行っていることに対して、国のほうが『人づくり革命』という形でどのような政策、制度、法律を出してくるのかしっかりと注視していかなければならないと思っております。地方創生、人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略等をつくって、その後地方創生はどうなっているのか、石破大臣が辞めてから言葉を発する人がいなくなってしまう、数百万というお金は来たのですが、東京の一極集中と地方の人口減少抑制という流れに勝てるだけのお金は来ていないのではないかと、いつの間にかはしごを外されてしまったという感じがしております。その間にも地方創生が叫ばれなくなったら、一億総活躍となって、その後は女性活躍推進法という法律ができて、女性活躍のための計画作りもして、女性会や商工会議所の方々にお願いして各企業でもこういうことをやってくださいとやり取りをさせていただいたのですが、それもどこかにいってしまった。今度は、内閣改造となったら人づくり革命だと、1回も審議をしないで解散になってしまった、今度の22日の衆議院選挙の後はどうなってしまうのか、懸念というか不安がありますが、どちらにしても消費税の使いみちを人づくり革命のほうに持っていく、いわゆる教育費無償化に持っていくという話がありましたので、そういったところをしっかりと注視しながら、教育や子育て支援等に力を入れていきたいと思っております。先ほど申し上げましたように、はしごを外されてもやっていける制度にしていこうと、国の補助金をあてにして始めて、補助金が打ち切られたからやめますというのでは、私達は国と違って市民を抱える自治体ですから、一度始まった制度を途中でやめるということはなかなかできません。これから人づくり、あるいは社会保障制度等についても、はしごを外されてもやっていける地方自治体独自の仕組みを作って、人々の安心、安全を守っていければと思っております。そういった部分にお金がかかってくるものですから、どう財源を確保するか、何を削って何をやっていくのか、あれもこれもという時代ではなくなってきましたから、取捨選択とプライオリティーをしっかりと決めながらやっていきたいと思っております。また、委員の方々にも、御指導をいただく場面が出てくると思いますので、市政全般にわたってきたんない御意見をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。私からは以上でございます。この度の答申、まことにありがとうございます。

○**執行機関** ありがとうございます。それでは、市長と委員の皆様との意見交換の時間を15分程度設けさせていただきたいと思います。

○**高橋市長** 委員長から何かございますか。

○**\_\_\_委員長** 今回、新規評価として8事務事業を評価しましたが、うち二つの事業が旧内原町の事業を引き継いでいるものでした。水戸市と合併して一体化されていますが、特別な配慮をされるものなのか、あるいは水戸市として安定している事業なのか、その辺りはいかがでしょうか。

○**高橋市長** 『内原ふれあいまつり』については、かなり人を集められるまつりであり、地域コミュニティが育まれる効果があると考えております。今は内原自治会ですが、平成30年度の途中から内原自治会、妻里自治会、鯉淵自治会に分かれます。市民センターが全て出揃うことから、コミュニティが変わってくることになります。私は常澄の人間ですが、コミュニティが分かると地域の一体感が無くなってしまっていて、少々寂しい思いがありました。「風土記の丘ふるさとまつり」というまつりを常澄地域で開催していきまして、その時に常澄村時代の皆さんと久しぶりに顔を合わせて、昔のコミュニティを思い出して和気あいあいと過ごす機会になっていると思います。ただ、そういうことのためにどれだけお金を使えるか、以前にも補助金等検討専門委員より御指摘をいただきまして、出演料のこと、出店料をとるのか、そういったことの見直しをさせていただいて50万円減らしたという経緯があります。450万円という金額が、内原地区の方々の楽しみを醸成するのに見合っているのか、これは物差しがないのでわからないというのが正直なところです。今はこのくらいの金額でまつりをやっただけで、足りない部分については商工会の会員の方から集めながらやっているようですが、もう少し削減できる場所もあるかもしれないです。ただ、地域の声では「もう限界だから、減らすのはやめてほしい」というのは聞いております。人はかなり多く集まり、子どもから高齢者まで内原地区の住民が一堂に会するまつりとなっております。敬老会や市民運動会等、住民全体が集まるイベントもありますが、それもいずれは3地区に分散するので、内原ふれあいまつりが唯一の全体が集まるイベントとなります。それに450万円という補助金が見合っているのか、計りかねるところです。

○**\_\_\_委員長** 実施主体が、市が直営で行っていたものから、住民主体の実行委員会へ移行されたそうですが、非常にスムーズに移行されたということで我々も高く評価させていただきました。一方で、『チャレンジ・ザ・原始人』については、リニューアルが必要ではないかと考えました。

○**高橋市長** おっしゃるとおりだと思います。地域住民の合併前からやっていたこだわりがあるもので、そこを削ってしまうのは難しいところがあります。それならば、水戸市と一体化した事業をやってくださいということで、数年前から上中妻、赤塚、双葉台といったところまで学区を広げていただいて、公募してくださいとしました。昔ながらの考え方、やり方でやっている部分がありまして、旧内原町の限られたコミュニティの中でやっ

た時でしたら、けが人が出て大目に見てくれるという風潮がありました。刃物を使って箸作りをしたり、なたで薪割りをしたり、それでけがをしたとしても子ども自身のせいであり、親が実行委員会へ苦情を言うてくるということは無く、昔ながらのコミュニティでした。しかし、今の時代には合わない、けがをさせないようにやらなければいけませんから、今は刃物を使わないようにしています。しかし、そういった体験が勉強になるのではないかという意見もありますから、その部分のせめぎ合いというのがあります。今は公募をして、危険なことはやめてほしいと、沢下りや山登り等は自然体験として仕方ないとしても、これまででもけが人が出ていた刃物を使う体験はやめてほしいということで、主催者側へ話をしております。来年からは担当が変わりますから、NPO団体を作っていただいて、その団体に補助金を出して、さらに協賛金を集める等して指導者をきちんと育成することが大切です。これまでは市職員も4泊5日のイベントに参加してきましたが、これからは市は一切関わらず補助金だけ出す、実施主体はNPO団体であるとして、まずは人材育成のために、水戸市の少年自然の家で何泊かしてリーダーとなる人を育てる、そのリーダーとNPO団体が協力して事業を運営していけるようにする。もしかしたら今までのような4泊5日ではなく、2泊3日となるかもしれませんし、その辺りはNPO団体にお任せすることになります。しかし、補助金を出す以上は、NPO団体がやることだから後は知らないですよというわけにはいきませんから、危険を伴う体験には注意を払う、内原地区以外にも広く募集をかけていただく形をお願いしたいとやり取りをしているところでございます。

○\_\_\_委員長 ユニークな取組ですが、あまり知られていないように感じました。

○高橋市長 市報等にも掲載して公募しますので、今後は指導員の知らない子どもが増えてくることになります。今までは顔見知りの子もたちばかりでしたが、徐々に知らない子どもが入ってくるので、そうなった時にうまくやっけていけるか様子を見ながら、我々も指導を入れていかなければならないと思っております。

○\_\_\_委員長 わかりました。つい先日行われた『水戸まちなかフェスティバル』ですが、盛況でしたね。

○高橋市長 天気に恵まれたということもありますね。ただ、もしかしたら今年がピークかもしれません。というのは、これ以上良いものができるのか、同じことをやっているのは10万人の集客で終わってしまいます。現在、80の団体に参加いただいて、参加したいという方は結構いるのですが、これ以上増やすのはスペースの関係上難しいです。頭打ちになってしまうのももったいないと思います。

○\_\_\_委員長 新聞で取り上げられていましたが、人力車があるんですね。

○高橋市長 はい。もっとまちなかの人が多い場所でやりたかったのですが、なかなか警察協議が整わず、やっとな部のコースの許可をいただいた経緯があります。

○\_\_\_委員長 当人達とお会いしましたが、本当はメインストリートを走らせてほしかったと話していました。

○高橋市長 ただ、どうしても警察協議が整わなかったです。10 万人も集まっているのですから、接触事故の可能性がありますし、人力車もかなり幅があって道路を広く確保しなければならない、既に目一杯に出店している状況なのに道路を空けさせるのは難しいです。本当は道路部分で出店したくてもスペースがないため、银杏坂の歩道部分で出店していただいている方々もいます。ただ、良いイベントになってきているとは思いますが。特に保護者の方から『体験型の企画等、いいイベントである』、『子どもたちが遊びながら学べる、キッズニアのようなものはどうか』という御意見をいただいております。子どもたちがいろいろ体験できるようなメニューを充実させていけば、子どもと一緒に親御さんもまつりに来ます。ただ、今のままではマンネリになっていると思います。

○\_\_\_委員長 当大学の学生も参加しております、話を聞くと充実感のあるイベントだったということでした。

○高橋市長 ボランティアの方々にも楽しんでいただけた様子でした。ただ、先ほど申し上げたようにマンネリ化することが心配なところです。

○\_\_\_委員長 芸術館の自主事業について指摘させていただきましたが、その後はいかがでしょうか。

○執行機関 現在、担当課に聞き取りを行っております。

○高橋市長 国の補助事業があるから、そこに無理に食いついてやっている、ということがあるかもしれないです。水戸市が行うから補助金が出るが、芸術振興財団がやる場合は補助金が出ないということかもしれません。良い内容のものであればいいのですが、お金があるから何かやろうかというのでは意味がないです。芸術振興財団が自主事業として補助金を使える仕組みがあれば、芸術振興財団にお任せして学芸員に良い企画を作ってもらいたいと思います。その辺りの状況がどうなっているのか、担当課に調べさせていただきますので、それを見てやるべきかどうかを判断したいと思います。

○\_\_\_副委員長 よろしいですか。『市民スポーツ大会』について、地区ごとに開催されていて定着しているイベントですが、参加者の高齢化が進んでいるということでした。若い人も参加して、継続できるような仕組み作りや対策はありますか。

○高橋市長 数年前から、競技会方式にこだわらず、まつりといった形でスポーツ推進や健康増進を図るようにしてもいいですよ、と声をかけているのですが、最終的には競技会方式を選択しているようです。各地域の方々の話を聞くと、参加者を集めるのに苦労している状況が伺えます。そのため、スポーツフェスティバルという形で行ってもいいですよと声をかけたのですが、やはり競技会方式を選んでしまう、固定観念があるからだと思います。私も毎年、いくつかの地区へ見に行っているのですが、去年は15チームあったのに今年は13チームに減ってしまったとか、10年前は20チームほどあったのに今は10チームしかないといった状況でした。人が減っているからチームを作れない、AとBの町内会が合併してチーム数が減ってしまったということがいくつも起こっています。どこかで変えていかなければと思います、参加を強制できるものではないですし、あくまでも各地区

の実行委員会が主体となっていて行っている事業ですから、市が『このようにやってください』と決められるものではないです。地域コミュニティプランを作った意味も無くなってしまいますから、そこは各地区にお任せしています。昔からやっている人たちは旧来のやり方でやりたい、若い人たちは面倒だから関わりたくない、しかしそれでは地域コミュニティが無くなって、町内会や自治体で顔を合わせる機会が減ってしまうことになります。例えば、災害が起こった時に皆で助け合おうという意識が失われてしまうものですから、地域の運動会やまつりをとおして協調性を育てていただきたいという思いがあります。何かはやっていただきたい、しかし答えがないですから、引き続き議論をしていくしかないと思います。大きな自治体なのに驚くほどチーム数が少ない、そういった現状を主催者も見ているのですが、参加してくださいと呼びかけるが反応はないという状況です。各町内会から強制的に人を出させるわけにもいきませんし、どうすればいいのか悩ましいところです。町内会の加入率も10年前でしたら84パーセントくらいあったのですが、今は61パーセントくらいです。

○\_\_\_委員長 市内一斉に行うというのは珍しいですね。

○高橋市長 20年くらい前にはもっと大々的に行っていました。各地域で優勝したチームが水戸市立競技場に集まって決戦大会まで行っていました。それが負担だと、優勝したチームは11月に決戦大会へ行くことになるので、選手を集めたりするのが大変だということで、今は決戦大会は行っていません。各地域での市民運動会は今も行っていて、先ほども申し上げたように名前を変えてもいいですよ、皆で集まって、ニュースポーツのようなことをやってもいいですよと呼びかけているのですが、そういった形を選択する自治会はいつもないです。

○\_\_\_委員長 競争するものを選んでしまうのですか。

○高橋市長 熱いタイプの人たちがいまして、やはり運動会は競争しないとだめだという意見に押し切られる感じなのでしょうね。

○\_\_\_委員 私は行政評価に関わって2年になりますが、知らないイベントが多いと思いました。私が勉強不足なのか、周知が足りないのかわからないのですが、先ほど町内会の加入率が下がっているという話がありましたが、そういう人たちは市報を見ないことになります。告知するにしても「市報に載せました」では周知が足りないのではないかと思いますので、市報のあり方も含めて検討したほうがいいと思います。せっかくイベントを開催しても、周知されず人が集まらないのでは意味がないと思います。

○高橋市長 おっしゃるとおりだと思います。昨年行われた『エンジン 01 文化戦略会議』というイベントで、様々な方が講演をしてくださったのですが、イベントのことを知らなかったという人がいました。水戸に限らず茨城は宣伝が下手だ、魅力度最下位だ等と言われています。みとの魅力発信課を設置して、広報のやり方は変わってきたと思いますが、SNSを活用して若い人に見てもらえるようにする、市報もカラー印刷にして特集を組む、『ミトノート』のように特化したテーマで水戸のイメージアップを図る等、やり方はずい



ぶん変えてきておりますが、未だに知らなかったという人がいます。イベントを知らなかったというならまだしも、災害に関する情報は知らなかったでは済まされないことです。全市民に周知徹底しなければ災害に対応できませんから、広報のあり方はイベントだけでなく人の命を守ることに関わってきます。例えば、インフルエンザワクチンの補助金をこれから始めるのですが、知らずに自費で接種してしまったとか、補助金のことを知っていれば接種をしていたのにとというような、補助金を利用されないことがこれまでもありました。今までは「広報みとに載せました」という姿勢でやってきましたが、見ていない人が多くいるのが現状ですから、広報のあり方を検討していきたいと思っております。

○\_\_\_委員 広報みとですが、回覧板でまわしても半分近くの部数が戻って来たりするので、見ていない人が本当に多いと感じております。

○高橋市長 私の住んでいるところでは、回覧板は10軒程度の家をまわっているのですが、やはり広報みとを取らない人がいたため、班長が1部ずつ名前を書いた付せんをつけるということをしていました。今は回覧板だけでなく、市民センターや銀行、コンビニ等どこでも手に入るようにしておりますし、水戸市のホームページでも見られるようにしております。興味を引くような作り方については、工夫の余地があると思います。

○\_\_\_委員長 2年目以降の事務事業についても、いろいろな取組をされていると思います。引き続きよろしく申し上げます。

○高橋市長 はい。水戸黄門まつりは、平成31年度に市制施行130年を迎えることを記念して大幅にリニューアルすることを検討しております。芸能人に頼らない、市民だけでなく観光客も楽しめるまつりにしたいと思います。農業祭と商工祭については、出店料や売上金といったお金の関係で分けているのか、関係者と話し合っただけで擦り合わせをしていきたいと考えております。

○\_\_\_委員長 その他何かございますか。

<意見無し>

○執行機関 それでは、以上を持ちまして、答申を終了としたいと思います。なお、高橋市長は公務のため、ここで退席をさせていただきます。

<市長退席>

○執行機関 それでは、引き続き、\_\_\_委員長に進行をお願いします。

○\_\_\_委員長 皆様お疲れ様でした。以上を持ちまして、平成29年度行政委員会は終了となりますが、委員の皆様から何かございますか。

<意見無し>

○\_\_\_委員長 それでは、事務局から何かございますか。

○執行機関 はい。今後のスケジュールについてですが、いただきました答申を基に、市長を本部長とする水戸市行政改革推進本部において、3次評価を行いまして、市の方向性を最終決定してまいります。また、今年度の行政評価については終了となりますが、来年度は10事務事業程度の新たな事業を選別して、御審議いただきたいと思っております。今年度も

長期間にわたっての御審議をいただきましてありがとうございました。

○\_\_\_委員長 それでは、平成 29 年度第 5 回行政評価委員会を終了いたします。お疲れ様でございます。